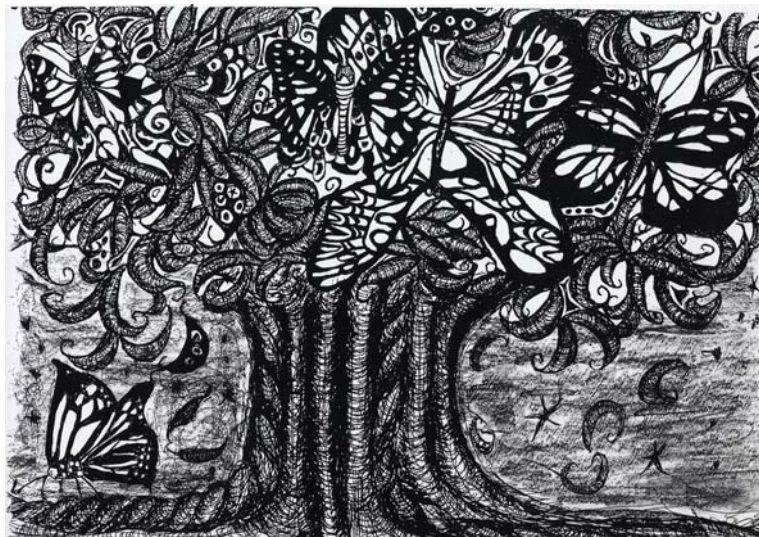


日本バプテスト連盟 沖縄浦添キリスト伝道所

OKINAWA URASOE CHRIST MISSION



がじゅまる



ちむわくわく（大きな感謝）

沖縄の土を踏んで一年を迎えようとしています。私たちにとって、初めての地ですが、この間40教会・伝道所、99名の方々が訪ねてください、数え切れないほどの励ましやおたより、お祈りをいただきました。有難うございます。たくさんの出会い、発見がありました。1年前には知りえなかった方々と、この地で毎週礼拝がささげられている。教会に喜んで集ってくる子どもたちがいる。そして沖縄の人と出会い、歴史・自然と出会い、イエス・キリストに出会ってこれからの歩みが変わられて行く、平和（シャローム）を実現する者へと派遣されていく、そんな祈りの中で始まった「沖縄平和学習ツアー2002」（8/26～29）に7教会・伝道所から17名の方々が参加して下さった。基地の強化、固定化の進む大きな痛みの中で、沖縄を通して共に

聖書に聴く時をもてました。参加者の声をお届けしたいと思います。・・・

そして、天城の婦人大会（8/21～23）で証の場が与えられ、郷土沖縄での西原新生伝道所と浦添伝道所を心から喜んで、大和の教会で元気な声をあげてくださる沖縄県出身の姉妹と出会えたこと。今回は一人の姉妹を紹介します。・・・

今、沖縄では米軍用機があわただしく飛び回り、兵士に予防接種（生物、化学兵器の脅威から守るための）もので45日前にする必要）が始まりました。新たな攻撃が始まりませんように。

（岡田富美子）

～ 第1回沖縄平和ツアー 2002に参加して ～

今回、本当に身体を現場に置いて感じる事の大切さを改めて思いました。本土にいるものとの感覚の違い、これは本当に大きいなと思わされました。また私は沖縄においても創氏改名のように日本名

るかを考え行動したいです。（青年）

僕は沖縄へ行く前に『太陽の子』を読みました。元ひめゆり学徒の上原さんが過去にあった悲しい出来事を話してくれた時、熱のこもったその話を聞いているうちに、本では感



を強要されたという事実は知りませんでした。あの平和の礎の波が全世界に広がるよう、「主よ、何をなすべきか教えて下さい」と祈り続けます。良き旧婚旅行となりました。（女性）

牛に引かれて善光寺参りならぬ家内に引かれて沖縄平和学習ツアーとなりました。飛行機に乗るのも初めて、沖縄に行く事も初めて、すべて初めてでした。土肥先生の沖縄の歴史[骨が語る沖縄]、ガイドの上原さん、安里さん、宇根さん…すべて心に残りました。あの戦で軍民20万人の死亡、このような争いのない世にすべく全世界の人々が一度あの沖縄のガマの体験をしてみれば？いかに戦争は無駄で、愚かな行為であるか。争いのない日が来るように…（壮年）

今回のツアーで今までの考え方が“相手が主体となる”考え方じゃなく、“自分”を中心に考えてしまっていたんだと反省させられました。自分（本土人）が考える沖縄の平和ではなく、沖縄の人が何を考えているのか、心理を学び沖縄の人が望む平和について本土の人間である自分が何ができ

荒崎海岸で（ひめゆり学徒自決場所）

じられなかった沖縄の人たちの悲しみが僕の心の中でいっぱいになりました。この話は一生忘れることなく、このような悲しい出来事は二度と起してはいけないと思いました。沖縄の人たちやツアーの人たちと楽しい交わりができてとてもうれしかったです。（中学生）

熱い沖縄の太陽の下、沖縄戦の戦跡を中心に見て回りました。中でも衝撃的だったのが糸数壕（アブチラガマ）でした。多くの住民や兵士がそこに避難をし生活していたそのガマは、懐中電灯を持っていても足りないほど暗く、でも実際にそこで負傷兵の手術をしたりもしていたと思うと、その頃の辛さ、大変さをほんの少しだけでも感じる事ができたのではないかと。頭では充分理解しているつもりになっていましたが、実際ガマに入り、元ひめゆり学徒の証言を聞き、今も問題を抱えている米軍基地を間近で見て、沖縄戦の辛さを膚で感じると同時に、本土と沖縄の温度差を改めて実感しました。でも、沖縄も本土も同じ日本だからこそ、もっと知っていかなければならないと思います。（青年）

南九州地方連合伝道隊をお迎えして・・・

< 2002.8.27 ~ 29 >

百聞は一見に如かず。今回の平和ツアーに参加して、その場に立って、呼吸し、見て、膚で感じることの大切さを痛感いたしました。あの糸数壕の中で一瞬暗闇の中で立ちすくみ、それでも目をこらして懸命に何かを見ようとした自分がありました。しかし何も見えず、皆が一斉に懐中電灯にスイッチを入れた時、見えなかったものを私にも見せてくださいました。共に学び主を讃美していく時に、言い知れぬ愛と喜びに満たされていました。

最終日、コンサートの後、一人の方の三線に合わせて、いつしか自然に歌と踊りが湧き上がっていました。沖縄よいとこ、一度はおい～で、サア～ユイユイ～そこには主によって一つにされた人々の愛と喜びに満ちた顔がありました。

イエスさまが私に言われました、「平和を実現する人々はさいわいである」「行って、あなたも同じようにしなさい。」私の実現できること。まず、沖縄の痛みを一人でも多くの人に伝えること。若者を沖縄に送り出すお手伝いをしていきたいこと等々。元気、パワー、愛、ゆるしの心、希望、たくさんのお恵を受けたツアーでした。(女性)

南九州伝道隊(隊長蓮池昭雄牧師)、3教会から4人の博士が西原新生伝道所、沖縄浦添伝道所を訪問してくださいました。27日、西原新生にて、祈りの時を持ちました。28日(土曜日)浦添、土曜教会学校“たまごクラブ”で、4名の方々がこどもたちと交わりの時をもって下さいました。午後、寺澤牧師に導かれ、南風原文化センター、黄金森、韓国人慰霊碑、平和の礎、魂魄を訪ねました。29日(日曜日)、2名ずつに分かれ、それぞれの伝道所で、お証をして下さいました。午後、西原では、次週、特伝を控え、そのためのトラクト配付。伝道隊の人々が迷子にならないように配慮して下さいました。

(蓮池牧師から届いたお便り)

「西原、浦添の町並みを具体的に見、触れさせていただいたこと、敬愛する兄弟姉妹方との交わりは今後の祈りに生かされることを感謝します。遠かった西原、浦添が今「私の隣人」として、教会近辺の光景を思い浮かべながらお祈り出来ることは本当に嬉しい限りです。今まで、「沖縄は遠い」と思い込んでいた私たちの無知と愛の欠如をどうぞお許してください。...主なる神の祝福と豊かなお導きがありますように・・・」

食がはじまり？ / 平塚教会 鈴木須賀子

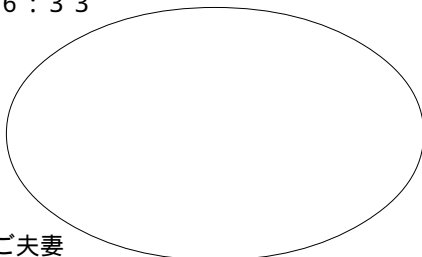
去る8月21日から天城山荘で行われた全国婦人連合総会で食事の時、隣席した富美子姉との出会いがはじまり・・・(やはり食が始まり?) その前に、富美子姉の沖縄開拓伝道のお証があり、その中で、伝道所と同じビルに住む3階のおば一の踊りを体中で表現された時は、私も思わず立って、カチャーシーを踊りたくなりました。

ちゅら海、ちゅらちむ、ちゅら島・・・私の生まれ育った沖縄を大和人(やまとんちゅ)の富美子姉が熱く語り、沖縄の美しさ、楽しさ、美味しさ、そして悲しみを機関銃の様にしゃべりだした二人…。食事の後、チャペルまでの通り道、トイレの前でふと涙した場面・・・忘れられません。

私はちょうど、復帰の年、15才でイエスさまを信じ、あの摩文仁丘に近い海岸でバプテスマを受けました。日本復帰も30年、私の信仰生活も30年、天城での婦人大会も30年、何か不思議な気がします。今年は婦人会の会長という大役をいただき、天城、そして2003年5月に沖縄で開催されるアジアバプテスト大会へ参加させていただきたく、祈りを膨らませています。お隣の韓国で、アジアの国々でイエスさまの御名が崇められますように。このすばらしいイエスさまとの出会い。そしてイエスさまに出会った人々との出会いは、まさに天国です。

土地を求めている、御伝道所のためイエスさまが最善をなしてくださいと信じて今日も祈り続けています。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられます。」マタイ6:33



鈴木須賀子姉ご夫妻

編集長：おかだふみこ

発行責任者：岡田有右

発行年月日：2002年10月30日

〒901-2121 沖縄県浦添市内間1丁目10-16-201
TEL/FAX 098-942-4775 牧師館 098-875-0707

「恐れるな。わたしはあなたと共にいる。」

伝道所開設(2001.12.4)から1年を迎えようとしています。沖縄と日本バプテスト連盟との係わりの歴史の中に身を置くことを許されています。多くの支援を受けながらも教会形成が進んでいるようには見えない不安とあせり、孤独に襲われます。そんな時に沖縄で出会い続ける人々、礼拝に集われる方々、沖縄バプテスト連盟の皆様にも勇気を与えられています。共に聖書を読み、み言葉に聴くことが出来る喜びを噛み締めています。聖書の字が大きく見えてきました。小さな出会いが多くを語ってくれます。人との出会いを通して沖縄の課題・本土の課題が見えてきます。そして、祈り、支え、足を運んでくださる全国の教会・伝道所のお一人お一人、見えない祈りによって励まされて歩んでくることができた1年でした。その時すでに、神の群れが集う沖縄浦添教会がこの地に立たされていることを覚えさせられます。

恐れるな。語りつづけよ。黙っているな。
わたしがあなたと共にいる。
だから、あなたを襲って危害を加える者はない。
この町には、わたしの民が大勢いるからだ。
(使徒言行録18:9-10)

主の約束に支えられ、さらなる1年を歩まされたいと祈られています。

(沖縄浦添キリスト伝道所 牧師 岡田有右)

編集後記

F「わたし、いつも『内地からですか?』『観光ですか?』と聞かれる。そんなこと聞かれたことある?」

Y「全然ない。一度もないサー」

F「・・・いいね・・・あら、また大きな目になってる・・・」

Y「そうサー老眼で、めがねかけるよういわれたサー」

F「それで、聖書の字が大きくなったわけ?」

Y「だからサ」 F「だからね」 ^・^

がじゅまる 秋号を手にとって下さりありがとうございます